

これであなともゾウ博士

「知って得するゾウさんのあれこれ」



元神戸市立王子動物園副園長

花木久実子先生

動物園の一番の人気者はジャイアントパンダですが、不動の2位は

ゾウです。昨年私はネコの会でジャイアントパンダのヒミツをお話し

させていただきましたが、今日の主役はゾウです。世間ではゾウを知らない人はいませんが、ゾウ

もヒミツがいっぱいあります。

神戸はゾウとの関わりが深く、王子動物園の前身である諏訪山動物園に始まり80年以上にわた

ってゾウの飼育が続けられてきました。この長い歴史の間に起こった神戸のゾウたちのエピソード

を交えながら、話のネタになりそうなゾウさんのヒミツについて少しばかりご紹介したいと思います。

います。



1 ゾウさんのからだ

ゾウは陸上で最大の動物。大きなゾウは体重が7トン（7000kg）ぐらいになります。幕内力士

の平均体重が160kgぐらいなので、ざっと相撲取り40人分。長い鼻を動かす筋肉が4万個（10

万個との説も）もあり、普通の哺乳類に見られるような鼻骨はありません。そしてこの大きな体と

長い鼻を支えるために、頭蓋骨や四肢の仕組みが独特です。



2 ゾウさんのうんこができるまで

食べる時は長い鼻で草をちぎり、食べ物を口に運びます。大きなカボチャ等は踏み潰して食べます。タケは脚と鼻を使って食べやすいようにメキメキと割ります。なので前歯は要りませんしありません。牙は切歯骨から生えていますが食べることにほとんど意味はありません。ゾウさんの歯は形といい、生え変わりの方法といい、非常にユニークです。草食動物ですが腸は羊より短いです。ゾウさんのうんこは形のあるうんことしては地球上最大です（多分）。一個が子供の頭ぐらいの大きさで量も多いので飼育係は大変です。王子動物園ではゾウのうんこは業者さんに堆肥化してもらっています。

3 ゾウさんの引っ越し

体の大きさゆえに移動は大掛かりです。今は輸送用の丈夫な箱に入れて低床トラックや船で運びますが、昭和の時代は公道を歩いて引っ越しをすることもありました。神戸では昭和 26 年に 2 頭のゾウが動物園間を歩いて引っ越しをしたときに、市電や自動車の警笛に驚き大暴れし、飼育員らを投げ倒して脱走し、見物客約 2 万人が大騒ぎとなったエピソードが残っています。また、1970 年（昭和 45 年）、吹田で日本万国博覧会が開催され、

イベントに出演するためにタイからゾウがやってきた時は 16 頭のゾウが神戸港から万博会場まで約 40 キロの道のりを歩いて移動しました。このゾウの行列が王子動物園の前に差し掛かったとき、動物園内である出来事が・・・。

大阪万博にやってきた 16 頭のゾウたち
福田元二撮影 昭和45年

神戸港から大阪吹田の万博会場までパトカーに先導されて行進した。

途中、武庫川で一泊。日本に滞在中に子ゾウも生まれた。



<https://www.mbs.jp/news/feature/kansai/article/2022/04/088758.shtml>



4 ゾウさんたちのナイショ話

ゾウの鳴き声といえば「パオー」ですが、それ以外にゾウは人間には聞こえない低い音（低周波音）で会話をしています。口を開けて喋っているように見えないのにゾウ同士は低周波音を出してお話ししているのです。10km 以上離れていてもコミュニケーション可能と言われます。低周波音の発生とキャッチには「ゾウさんのからだ」でお話ししたような体の作りが深く関わっています。王子や他の動物園で観察されたゾウの低周波音による面白いエピソードや研究事例などを

紹介します。

5 ゾウさんの出産と子育て

野生のゾウは年長のメスとその娘と子供で群れを作ります。ゾウの妊娠期間は22か月と非常に長く、子が離乳するまで長くて3年かかることもあるため、ゾウは群れのメンバーが出産、育児をサポートします。この群れでの経験がのちの自分の繁殖、出産、子育てにつながるのです。

しかし群れでの経験がないメスゾウは子育ての方法がわからず、産んだ子に対してパニックになったり授乳できないことがしばしばあります。王子動物園のメスゾウのズゼは動物園生まれで自身が生後3ヶ月で親を亡くしたため子育てができず、産んだ2頭のゾウは人工保育の末、早くに亡くなりました。3回目の出産前には子育て上手のメスゾウがいる「市原ぞうの国」に連れて行き子育ての様子を見せたのですが、やっぱり子育てはできませんでした。そんな時、手（鼻？）を差し伸べてくれたのが・・・



略歴

花木久実子（元神戸市立王子動物園副園長、獣医師） 山口大学農学研究科修了。

神戸市役所に入庁し、環境保全、食品衛生、動物愛護行政等を経て2010年に神戸市立王子動物園に配属。動物園時代は飼育動物の健康管理、治療、収集、輸送、教育普及活動、アジアゾウやジャイアントパンダの飼育繁殖関連業務に従事。現在は神戸市内で中獣医学（鍼灸や漢方）を用いたペットの治療を行なうとともに、非常勤講師として専門学校で動物園学、博物館学等を教えている。